

治療中断を防ぐための当院の取り組み

よこた内科クリニック

院長 横田 一樹 先生

糖尿病は残念ながら、現時点では一生付き合っていかなければならない病気です。一生の内のたった一年の治療の中断で糖尿病の合併症は10%も増加するという報告もあり、通院治療の中断は絶対に避けるべきです。

『糖尿病予防のための戦略研究（Japan Diabetes Outcome Intervention Trial; J-DOIT）』の課題2（J-DOIT2）では、介入を行わない通常診療群で、1年当たりの受診中断率は8%程度と報告されています。受診中断の理由としては、治療の優先度の理解不足（『仕事が忙しいから』など）、や疾患への認識不足（『特に症状がないから』など）が挙げられていますが、受診中断を防ぐには、患者と医療スタッフがお互いに治療継続の必要性を強く認識することが必要であると考えます。

そのため当院では治療開始時から糖尿病専門の医療スタッフがしっかり介入し、患者さんの『治療満足度を上げる』ことを最優先の目標としています。そのため当院のほぼすべてのスタッフが糖尿病療養指導士の資格を取得し、療養支援を強化しています。

具体的にはまず初診時にはA4用紙3枚程度の問診票を用いて詳細な糖尿病の問診を行います。初診時は皆さん初めて訪れるクリニックに不安な気持ちで一杯です。そこで、なるべく当院での治療に『安心』していただけるようにしっかり時間を取っています。

そして再診以降の通院に際しては、日本糖尿病協会発行の『糖尿病連携手帳』をフル活用しています。使用している病院やクリニックも時々見受けられますが、HbA1cが書いてあるだけの事が非常に多いです。当院では治療経過や合併症の結果などの記載していくのですが、手帳の中身も詳細に説明しながら療養支援を行い、患者さんの『信頼』獲得に役立てています。

さらに希望される患者さんには、日本糖尿病協会から発行されている『糖尿病カードシステム』をベースに当院で独自の患者支援ツールを用いて、主には糖尿病についての知識の習得もサポートしています。

当院の糖尿病療養支援の流れ

初診時にスタッフによる糖尿病問診

安心

糖尿病連携手帳の詳細な説明・利用

信頼

糖尿病カードシステムの利用

教育

それでも、やはり当院への通院が途切れる患者さんはおられます。その場合は、電話ではなく、担当した看護師などが直筆で手紙を書き、受診の有無を確認してするようにしています。手紙には、『当院以外でもいいので、必ず病院に受診すること』を伝えていくようにしています。この取り組みによって、中断してしまった病院への受診のハードルが下がるのか、再度受診してくれるようになる患者さんも大勢おられます。そして、再診してくれた場合は、『受診中断していたことを必ず責めない』ということを徹底しています。やはり受診中断していた患者さんは中断を繰り返す傾向があります。再中断を防ぐためにも、受診してくれただけでも十分であるという姿勢を示していくことを心がけています。

当院には2023年12月現在、1200名程度の糖尿病患者さんが通院中です。通院してくれている多くの患者さんが少しでも糖尿病のない人と変わらない人生を送れるようにするために、当院ではスタッフと患者さんが一丸となって治療に取り組んでいます。

